

まちなか公共空間等における
「芝生地の造成・管理」に関する懇談会
まちなかオープンスペース～芝生のチカラ～ 第3回

ツカウ 芝生とみどりのチカラ

国土交通省都市局
公園緑地・景観課

中嶋 利隆ゲスト委員・中嶋 美年子ゲスト委員（丸の内仲通り「芝生のチカラ」の効果と展開）

- 丸の内仲通りを、居心地よく歩きたくなる空間とするために、今年5月に「MARUNOUCHI STREET PARK」というイベントを行った。普段は車道の空間に、5日間100時間にわたって幅7m、長さ100mの芝生を設置した。
- 道路上が一夜にして芝生空間となった意外性が、人を惹きつけ、沢山の人が滞留する空間となった。路面の飲食店では、売り上げが5割アップになる等の効果があった。芝という緑の空間のチカラと考えている。
- 2020年の夏には、丸の内に芝生を使ったクールスポットを出現させるべく、仮設の芝生広場の実証実験を実施中。今回の実験結果を踏まえて、今後、仮設の芝生広場による酷暑対策の技術開発に繋げたい。

吉岡 俊哉ゲスト委員（まちなか芝生導入にあたっての技術）

- 競技場の芝生の耐用時間としては年間800時間を超えると、密度低下や擦り切れが目立ち始めるという研究がある。土壌基盤よりも利用時間によるファクターが大きく、使う場所をいかに集中させないかが重要。
- まちなか芝生として、日照時間の確保、芝生の利用目的の明確化、補修を前提とした設備、利用を集中させないような動線・利用の制御等が必要。
- 芝生を継続的に管理するポイントとして、臨機応変な対応と楽しく管理していくということが重要。

藤井 俊志ゲスト委員（梅小路公園芝生広場の維持管理）

- 芝生の管理ではエアレーションと目土に留意し、水はやらず、除草もしない管理を行っている。都市緑化フェア後の1995年に芝生広場を全面ノシバにしたがが、その後生育の強いティフトンに覆われ、ノシバは見られない状態。エアレーションは7年前から行っている。
- 梅小路公園の冬の魅力を上げたいという趣旨で、3年前より地域からの資金協力を得て、冬芝を導入している。夏芝のティフトンの生育期間よりも、冬芝の方の生育期間が長い。夏芝のティフトンに頑張ってもらうためにも、冬芝を育てることが芝地の生育環境の改善に繋がる。
- サッチ(刈芝)を取り除かない時期があったが、不透水層となっていた。スーパードで除去することが重要。

第2回の議論のふりかえり(意見交換の概要)

用いる芝生の種類について

- 京都市の岡崎公園ではセントオーガスチンを4、5年前に植えた。見た目がきれいなのは良いが、人が通る箇所では剥げた。そういう場所はティフンが良い。

芝生の設計について

- 校庭の芝生で利用を集中させないとの発表があったが、まちなかの芝生では、利用を誘導し踏圧から芝生を守る工夫も考えていくべき。

芝生の造成について

- 地域資材の活用例として鹿児島では、市電の軌道敷の緑化で基盤材に透水性、吸水性に優れたシラスを活用している。
- 芝張りを市民ワークショップでやるときに、子ども達を含めみんなでやることについて、特段の問題はない。一方で、ビッグロール芝などはプロの施工が必要。

芝刈りについて

- 梅小路では年3、4回の芝刈りで刈草が10cmにもあるため、必ずスイーパーを使っている。京都の気候では冬芝はあまり伸びない。夏芝は、できれば、5回、6回刈れると良い。
- 校庭の芝生では、週に3、4回刈っているところは刈りっぱなしでサッチの処理は行っていない。それより少ない頻度の芝刈りでは、サッチを処理しないと見た目が悪くなる。

芝生の維持費用について

- 梅小路公園の冬芝導入には、初年度の2016年に「京都梅小路みんながつながるプロジェクト」から800万円かけた。その後は、「冬芝の会」を設立し補助金や協賛金を受け入れ、300万円程度／年を要しているが、指定管理の受託料からは充当できていない。芝生広場のシンパをつくっている。冬芝にはお金がかかるが、最低限皆に愛される芝生とするよう取り組んでいきたいと考えている。
- 梅小路公園についてお金があればもっと除草も人力でできるが、雑草もある程度は許容しており、特にスズメノカタビラは芝生とみていただける。

第2回の議論のふりかえり(意見交換の概要)

仮設芝生の造成・管理について

- (土壌が)薄い中での水をどう管理するのは永遠の課題。丸の内仲通りの芝生の下のマットは、保水、クッション材としても理にかなう。
- 一部の芝については、欲しい方にお渡した。今回、枯れたものについては廃棄せざるを得ないが、状態の良いものは出来るだけ多くキャンプ場に移設する予定である。入れ替えの時期は、1週間から2週間程度と認識したものの、今後管理ノウハウを重ね、より長持ちするように工夫したい。また今回、途中でコウライシバを入れ替えたが、産地による見た目や、芝の長さ、根の密集具合などの違いもあったため、その点も留意して入れ替えを行う必要がある。

懇談会全般について

- この懇談会では、はじめてでも使えるマニュアル作成を目指すのが、地域性の違い、場の特性、部分的に種類を変えるなど、現場主義で今までのマニュアルや文献ではわからないことを示せたら良い。
- 芝生についても既成の芝生の技術ではない、もう一歩先の突き抜けた技術が必要ではないか。アメリカでは、ランドスケープターフと、スポーツターフの2種があり、前者は品質にはこだわらないが、スポーツターフではそうではない。まちなかの芝生は、この中間としてのカテゴリーとなるのではないか。このあたりを新しい技術として、深めていくべき。
- なぜウォーカーブル、イコール芝生という発想となるのか。都市での生産というのは物ではなく、知的価値を高めるクリエイティブな生産であり、その知的価値を高めるためには、ストレスを除くことが重要である。そのためには、無機化・デジタル化する中で、アナログな人間であることを心理的・生理的にも確認できるようにすることに大きな価値があり、そのためには自然的要素をどう入れていくか、そこにチャレンジしていくことに意味がある。今回の丸の内仲通りの発表で売り上げの話があったが、我々の購買意欲、勤労意欲をかきたてるのに、緑・グリーンインフラが有効ということが断片的に示された。

懇談会の論点と検討すべき項目(案)

論 点	検討すべき項目
① まちなかの芝生空間が持つ魅力	まちなかの芝生空間がもたらす魅力とは <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ芝生空間は人々を誘引するのか ・土地及び周辺地域のブランド力(価値)向上する芝生空間のチカラをどう評価するのか
② まちなかにおいて目指す様々な芝生空間	ウォーカブルなまちなかに求められる様々な芝生空間の目標とは <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの芝生空間の目的や役割とは何か ・目的・役割に応じた芝生空間の水準・条件とは何か (利用者数、利用者層、面積、イベントの実施の有無・期間、冬季の状況、閉鎖可能性 等)
③ 芝生のチカラを引き出す造成・維持管理の方法	魅力を持続させる芝生空間の造成・管理とは <ul style="list-style-type: none"> ・はじめて芝生化に取り組む際に抑えておくべき造成、維持管理の項目とは何か ・芝生の種類とその特徴(魅力を引き出すために理解すべき項目)とは何か ・造成、維持管理の各項目ごとのポイント(基本的事項)は何か ・芝生の使い方と直し方のバランスのとおり方とは ・外部委託する場合の留意点とは何か ・魅力を上げる可能性をもたらす芝生の新技術とは何か
④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携	芝生空間の魅力を持続し、さらに引き上げるための地域(地域住民・企業)との連携とは <ul style="list-style-type: none"> ・芝生空間の魅力を維持し続けるための維持管理において、行政にはない地域が持ちうる役割とは何か ・地域と連携していく上でのポイントは何か
⑤ まちなかの芝生空間が創る更なる効果・魅力	芝生空間の導入がもつ更なる意味・効果とは <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラとしての芝生空間の価値を高め方とは ・芝生地が持つ多様な効果(教育、福祉、心理的効果 等)を高めるための方法とは

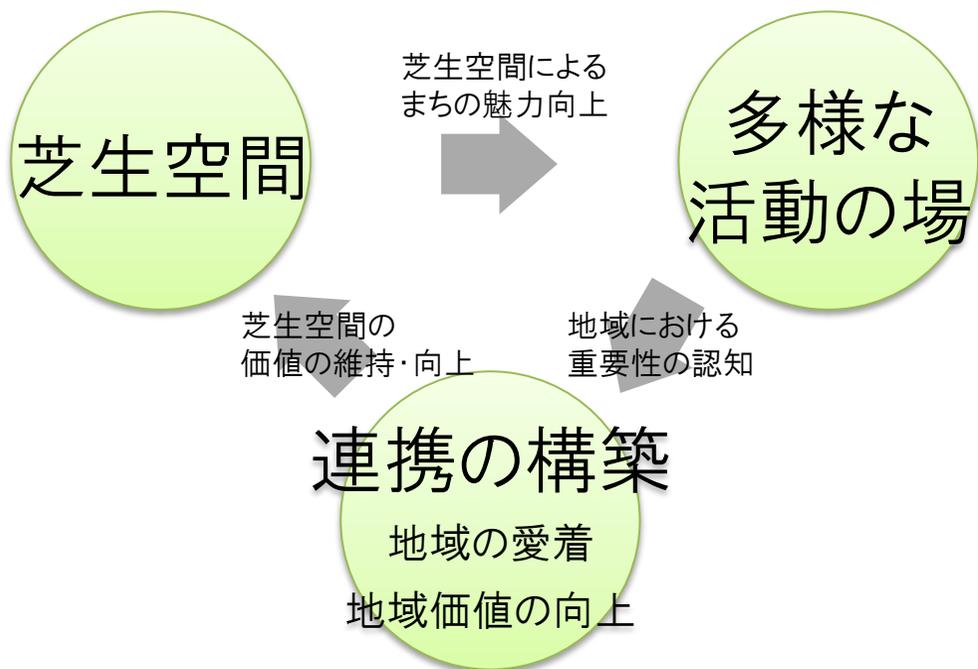
懇談会の論点と検討すべき項目(案)

論 点	検討すべき項目
① まちなかの芝生空間が持つ魅力	まちなかの芝生空間がもたらす魅力とは <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ芝生空間は人々を誘引するのか ・土地及び周辺地域のブランド力(価値)向上する芝生空間のチカラをどう評価するのか
② まちなかにおいて目指す様々な芝生空間	ウォーカブルなまちなかに求められる様々な芝生空間の目標とは <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの芝生空間の目的や役割とは何か ・目的・役割に応じた芝生空間の水準・条件とは何か (利用者数、利用者層、面積、イベントの実施の有無・期間、冬季の状況、閉鎖可能性 等)
③ 芝生のチカラを引き出す造成・維持管理の方法	魅力を持続させる芝生空間の造成・管理とは <ul style="list-style-type: none"> ・はじめて芝生化に取り組む際に抑えておくべき造成、維持管理の項目とは何か ・芝生の種類とその特徴(魅力を引き出すために理解すべき項目)とは何か ・造成、維持管理の各項目ごとのポイント(基本的事項)は何か ・芝生の使い方と直し方のバランスのとおり方とは ・外部委託する場合の留意点とは何か ・魅力を上げる可能性をもたらす芝生の新技術とは何か
④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携	芝生空間の魅力を持続し、さらに引き上げるための地域(地域住民・企業)との連携とは <ul style="list-style-type: none"> ・芝生空間の魅力を維持し続けるための維持管理において、行政にはない地域が持ちうる役割とは何か ・地域と連携していく上でのポイントは何か
⑤ まちなかの芝生空間が創る更なる効果・魅力	芝生空間の導入がもつ更なる意味・効果とは <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラとしての芝生空間の価値を高め方とは ・芝生地が持つ多様な効果(教育、福祉、心理的效果 等)を高めるための方法とは

④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携

芝生空間の魅力を持続し、さらに引き上げるための地域(地域住民・企業)との連携とは

○ 芝生空間の魅力を存続することが地域の価値向上につながる「正のスパイラル」を実現するために必要なことは何か



芝生空間と地域(まちづくり)のスパイラルアップの関係イメージ

実現のためのポイントは？

芝生空間の整備のために

- ◆ スタート資金の工夫

多様な活動ができるために

- ◆ 民間が活動しやすい環境

地域との連携の構築のために

- ◆ 多様なプレイヤーの参画

- ◆ 維持・向上に必要なスキルの提示

etc.

④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携

地域との連携による公園(芝生空間)管理の事例・・・南池袋公園(豊島区)

管理・・・ルールを定める

- 開園時に地域住民の参加による持続可能な公園経営を行うための運営組織「南池袋公園をよくする会」を組織化

運営・・・公園への愛着を醸成する

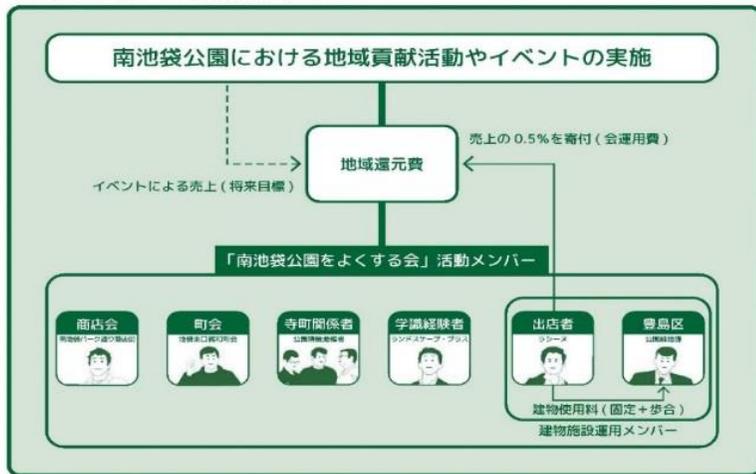
- 公園の運営を行政だけが担うのではなく、植栽管理受託業者・カフェ事業者(地元企業)と共に地域住民(「南池袋公園をよくする会」)が主体となって参画することで、公園の魅力を維持し、高めている

資金・・・管理・運営にお金が還元する仕組みを構築

- 占用料収入が区に、また、協定によるカフェ売り上げの一部が運営(「南池袋公園をよくする会」)に



「南池袋公園をよくする会」の仕組み



西武造園株

(株)グリップセカンド

南池袋公園をよくする会

- ・芝生・低木の植栽管理 (豊島区より委託)
- ・公園内でカフェ・ラシーヌを運営
・都市公園法5条2項に基づく許可 (10年間の管理許可)
- ・地元の運営組織
・南池袋公園でのイベントを審議
・会としてもイベントを実施

④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携

地域との連携による芝生管理の事例・・・梅小路公園(京都市)



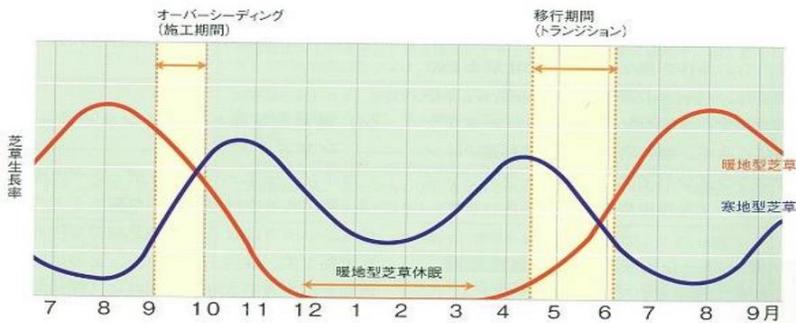
公園(芝生含む)管理の概要

- 京都市の梅小路公園は、指定管理者制度により公益財団法人京都市都市緑化協会が管理
- 芝生広場の通常管理に加え、公園の冬の魅力向上のため指定管理者の独自事業として冬芝を導入

管理に係る資金の仕組

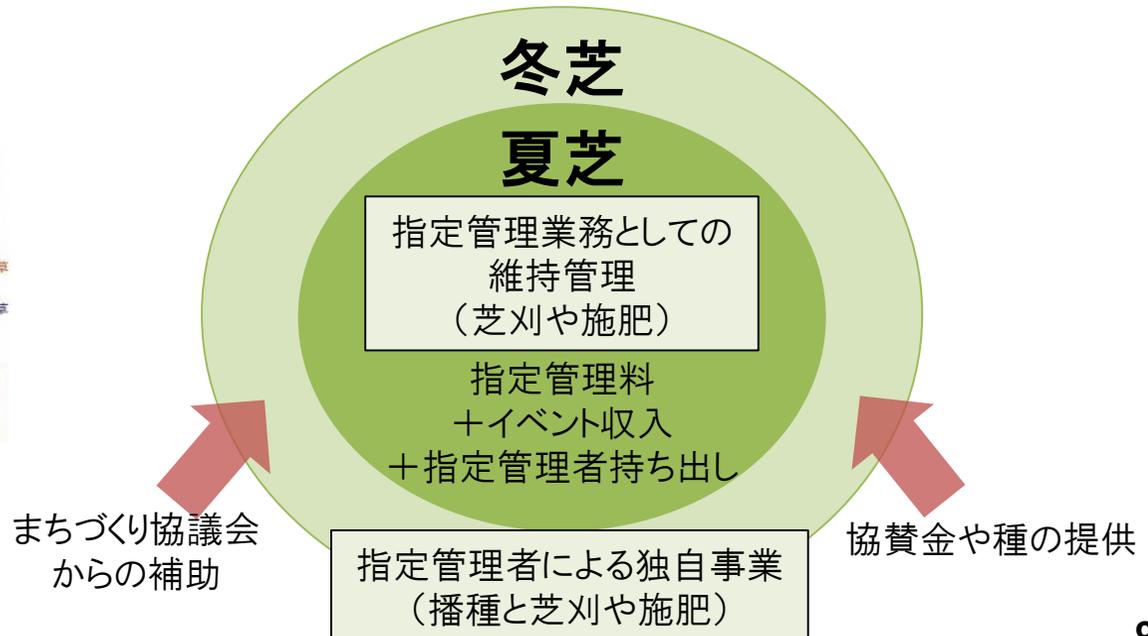
- 冬芝導入は、まちづくり協議会の「京都梅小路みんながつながるプロジェクト」からの補助金や、企業からの協賛金・種の提供による
- 「冬芝の会」を設立し補助金や協賛金を受け入れる体制を構築

芝生の生育パターン 夏芝 冬芝



出展:「芝生への挑戦」芝生スクール京都編

藤井ゲスト委員 提供資料より



④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携

地域との連携による芝生管理の事例・・・ブライアントパーク(ニューヨーク)



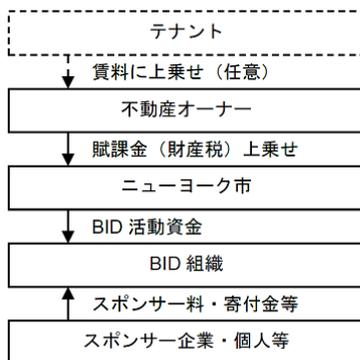
公園(芝生含む)管理の概要

- 民間事業者を主体とするブライアント・パーク・コーポレーション (BPC)が公園を管理。BIDによるエリアマネジメント活動により、質の高い公共空間の創出・管理と魅力的なイベントを開催
- カフェ、レストラン、読書、ストリートチェス、メリーゴーランド、卓球、スケートリンク等、多様な活動の場を提供している

管理に係る資金の仕組

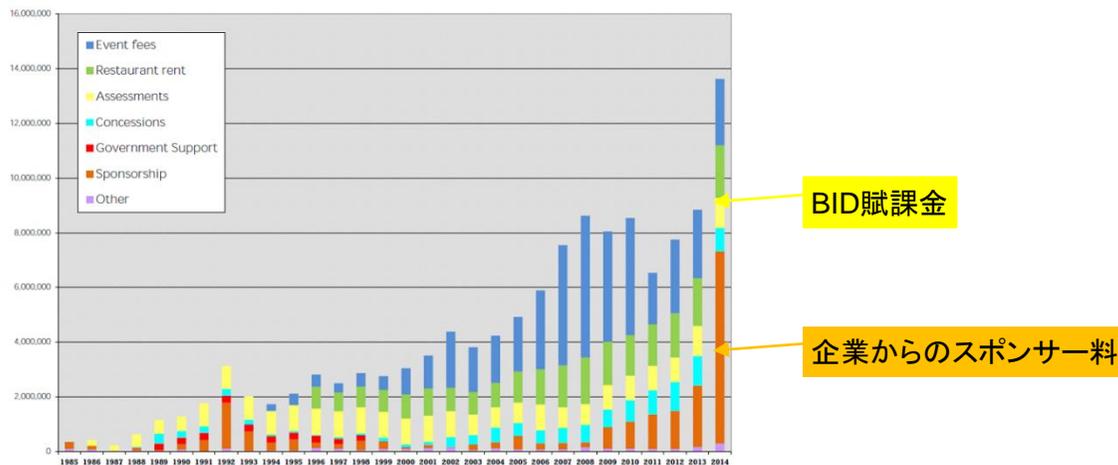
- ニューヨーク市が公園周辺の不動産オーナーから、財産税に上乗せする形でBID賦課金を徴収
- BPCは、BID賦課金その他、レストランの運営収入、イベント等の公園の利用料等を収入源として公園の管理を実施
- 周辺の資産価値の向上が見られ、BPCの現在の主たる収入はBID賦課金ではなく、企業からのスポンサー料やテナント使用料

BIDのスキーム



(「Bryant Park BID:官民連携による公園の魅力化の成功事例」、一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所研究員 大和則夫)

Bryant Park Revenue Sources



(出典) Bryant Park Corporation より受領

④ 芝生空間と周辺のまちづくりとの連携

地域との連携による芝生導入の事例・・・丸の内仲通り(千代田区)

MARUNOUCHI STREET PARK 開催概要



開催日時：2019年5月14日（火）～5月18日（土）

開催場所：丸の内仲通り 有楽町エリア
丸の内二重橋ビル前ブロック

主催：MARUNOUCHI STREET PARK 実行委員会
NPO法人大丸有エリアマネジメント協会
大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
三菱地所株式会社

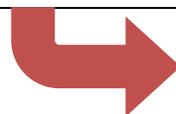
後援：千代田区

■全体イメージ

- 新緑の季節を迎えた丸の内仲通りに、突如一夜にして**100時間限定の公園**が出現。
- 幅7m×長さ約100mの広さに天然芝を設置。見た瞬間の驚きに加え、芝の香りを感じられる上質な空間を演出。
- ビジネス街に突如出現した癒しの空間では、ピクニックスタイルの飲食や物販を実施。
(コンテンツ協力企業：ペニンシュラホテル東京、東京ステーションホテル、二重橋スクエア路面店舗、一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン、東京ピクニッククラブ、GANON、ADRIFT、)
- ストリートピアノを設置し、ミュージシャンやパフォーマー等がエンターテインメント空間を創出。

人も、想いも、心を、想いも。  三菱地所

中嶋ゲスト委員 提供資料より



地域の価値向上の可能性

- 仮設の芝生広場の設置により、路面店売り上げのアップや新たな人の流れがもたらされた
- 芝生広場への投資は、周辺不動産の価値向上につながる可能性
- 今後の展開として、2020年夏に芝生を設置し、道路空間の魅力向上を図る

本日のゲスト委員のご紹介



平井 勝 ゲスト委員

(独)都市再生機構 技術・コスト管理部
都市環境計画課長

URにおける芝生広場の
の
整備・利活用について



島 一喜 ゲスト委員

(独)都市再生機構 東日本賃貸住宅本部
技術監理部担当部長



平賀 達也 ゲスト委員

株式会社 ランドスケープ・プラス 代表
日本ランドスケープアーキテクト連盟副会長

ツカウ
芝生とみどりのチカラ
～南池袋公園の
取り組みについて～

第1回	ヒロゲル 芝生とみどりのチカラ 【まちなか空間への展開、 グリーンインフラとしての位置づけ】	7月12日(金) 9:30~12:00
第2回	ソダテル 芝生とみどりのチカラ 【芝生設計・施工・管理の技術・手法】	8月16日(金) 15:30~17:30
第3回	ツカウ 芝生とみどりのチカラ 【利用の考え方・地域との連携】	10月31日(木) 10:00~12:00
第4回	ツナガル 芝生とみどりのチカラ 【芝生・みどりの更なる展開】	11月29日(金) 15:30~17:30
	中間とりまとめ公表	年内